

1. はじめに

社会経済活動の国際化の流れの中で、多くの組織がISO9000シリーズに基づき審査をうけ登録を行っています。

ISO9000シリーズに関する基本的事項は、1995年6月15日に発行

された本誌（「建設電気技術」110号）の“ISO9000シリーズに対する建設省の取り組み状況について”において、すでに説明されています。すなわち、ISO9000シリーズとこれへの建設省対応概況、ISO9000シリーズの内容、ISO9000シリーズの採用状況、国

内建設業界アンケート調査結果、行政機関の採用の可能性・建設省の今後の対応が述べられています。

従って、ここでは、電機業界を中心に業界からみたISO9000シリーズへの取り組み状況について紹介します。

基礎講座

ISO9000シリーズに対する 業界からみた取り組み状況について

2. ISO 9000シリーズの審査登録状況

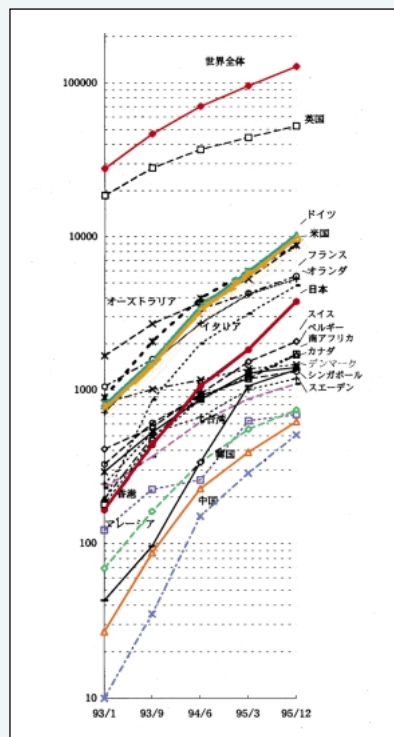
2.1 世界の審査登録状況

図一1に、世界の審査登録の件数を示します。1995年12月で、世界99カ国約13万件（現在15万5千件）の審査登録がありました。図一1に取り上げた国は、1993年1月時点で日本よりも件数の多かった国と日本の近隣国です。

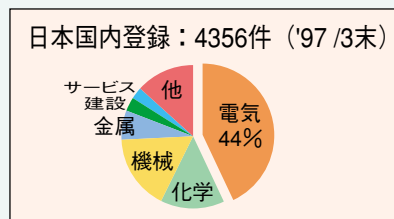
政府の通商産業政策として戦略的に品質システム審査登録制度を推進したイギリスが最も件数が多く、英連邦諸国とEC統合のヨーロッパ諸国が先行していました。現在、ドイツ、アメリカ、日本、さらにはアジアの諸国が急速に件数を伸ばしています。

(1) 国内の審査登録状況

図一2のように、日本国内の審査登録件数は、4300件あまりであり、この中で、電気関係が半数近くを占めています。これは、電機業界が、製品輸出もあり早くか



図一1 世界の審査登録件数



図一2 日本の審査登録件数

らISO9000に取り組んできたことによります。例えば、電機工業会は、1993年の（財）日本品質システム審査登録協会（JAB）の設立・運営にも協力してきています。

2.2 審査登録企業アンケート調査結果

（社）日本電機工業会のISO品質システム対応委員会が、1995年秋に、ISO9000シリーズの審査登録を受けて実運用に入っている会員企業にアンケート調査を行い、14社114件の回答を得ました。この調査結果のポイントは、工業会の機関誌「電機」1996年5月号に発表されています。この中から、企業の取り組みに関する部分を以下に紹介します。なお、回答の中で最も早い登録時期は1991年であり、1994年の前後に件数の山がありました。

(1) 審査登録した規格

ISO9001 ⁽¹⁾ : 80%

ISO9002 ⁽²⁾ : 20%

(1) 設計・開発、製造・据付、最終検査・試験及び付帯サービスにおける品質保証モデル
(2) 製造・据付及び最終検査・試験における品質保証モデル。

(2) 審査登録の目的

審査登録をうけるだけ12%、品質管理・品質保証体制の整備向上のため16%、前記の両方68%

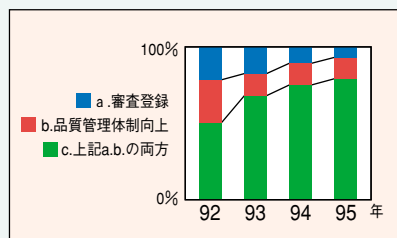


図-3 電機メーカーの審査登録目的とその推移

(3) 審査登録時の期待に対する成果

期待以上18%、期待通り74%、やや期待はずれ9%

(4) 審査登録の販売営業上の効果

受注条件をクリアできた18%、販売上有利だった24%、審査登録の要求があった29%、とくに効果なし16%、不明21%（複数回答あり）

(5) 品質管理・品質保証体制の整備・向上

形式的にも実質的にも大幅向上8%、形式上の大幅向上に伴い実質面も向上65%、形式的には向上し実質的には同じ24%、実質的には低下の恐れ1%、従来と大差なし2%

(6) 購入者としての活用

全購入先に登録を要求している2%、一部購入先に要求している26%、今後要求するつもり12%、未定43%、今後も要求しない17%……審査登録要求によるコストアップを懸念していることが最大の理由

(7) 品質システム維持の負担

コストが低減1%、コストは変わらない21%、コストは増えたが改善効果の方が大きい26%、コスト増と効果が同程度45%、コスト増を効果でカバーできない7%

(8) 品質システム運用による製品品質の向上

大幅に向上した2%、向上する62%、変わらない36%

以上から、ISO9000品質システムの審査登録が、単に顧客からの審査登録取得要求に対応だけでなく、品質管理・品質保証体制の向上による製品品質の向上をめざして使われていることが浮かび上がります。

3. ISO9000品質システムへの対応状況

審査登録を行った日立における状況を紹介します。

工場は全てISO9000の審査登録を取得しています。ISO9000は品質管理におけるミニマムの要求条件であり、従来から実施してきた品質管理・改善手法を組み合わせた品質システムを構築しています。図-4にこれを概念的に示しますが、外部から見たシステムの論理性・透明性という新しい視点で、従来からの品質システムを見直しして、より強化・改善することに役立っています。今後も、第三者機関という外部からのより広く多様な見方を参考にして、品質シ

ステムの改善を図っていきます。

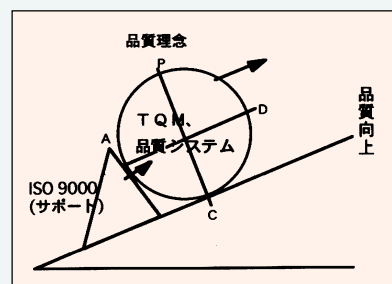


図-4 ISO9000審査登録の活用

品質システムの活用とともに、ISO9000システムの適用拡大を図っています。工場と直結する関連会社や取引先の審査登録がどんどん進んでいます。また、工場と直結する本社管理部門でもISO9000品質システムの導入を進めています。

次に、ISO9000シリーズそのものの動向と業界の対応を紹介します。

現在、ISOは、表-1のようにISO9000シリーズを、全ての製品分野、全ての種類の製品供給者、広い部門活動にとって使いやすい規格にすべく大改訂の作業に入ったところです。電機工業会も他の工業会とともに、この改訂に対応する国内委員会に参加しています。

4. おわりに

ISO9000シリーズは、当初、製品の品質を向上・維持するために作られ、その後、審査登録の基準として通商・売買活動の効率向上にも用いられるようになっていきました。いずれも、企業活動そのものに関わるものであり、企業にとって使いやすく役立つものに育て、活用するよう、全ての業界が努力していくべきものです。

表-1 ISO9000シリーズの改訂

| 1987年：制定 | 1994年：小改訂 | 2000年：大改訂 |
|-----------------|---------------|-------------------|
| 供給者と購入者間での使用を意図 | 第三者機関の審査登録に対応 | ◆使いやすく ◆TQMに対応 |